

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	千葉県	事業実施主体	千葉県、館山市、木更津市、鴨川市、君津市、富津市、袖ヶ浦市、南房総市	地域再生計画名	「東京湾アクアライン・東関東自動車道館山線等のポテンシャルを最大限生かすための地域活性化計画」
計画期間	平成２９年度～令和５年度	評価責任者	千葉県総合企画部長、農林水産部長、県土整備部長、館山市総合政策部長、木更津市企画部長、鴨川市経営企画課長、君津市企画政策部長、富津市総務部長、袖ヶ浦市企画政策部長、南房総市総務部長		

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価			
	目標 1	人口の社会増	594人	H26	2,500人	R1	643人	3,200人	R6	1,114人	△	指標 総数	達成 数	経済情勢の変化、高齢化・人口減少などにより最終目標値を下回っているが、市道と広域農道を一体的に整備したことにより、地域住民の利便性の向上、狭隘道路・混雑道路の解消が図られ、人口減少の抑制に繋がった。	
	目標 2	農業の活性化（花きの生産額の年2%の増加）	314,856千円	H27	340,809千円	R1	199,195千円	354,577千円	R6	122,751千円	×	5	1	道と広域農道を一体的に整備し、また、6次産業化などの担い手支援を行ったことにより、農産物の輸送の効率化が図られ、農業の活性化に繋がったが、農家の高齢化に伴う離農や経営規模の縮小などにより、最終目標値には至らなかった。	
	目標 3	農業の活性化（びわの生産額の維持）	161,156千円	H28	161,156千円	R1	135,045千円	161,156千円	R6	84,982千円	×			農家の高齢化に伴う離農や経営規模の縮小などにより、最終目標値を下回っているが、市道と広域農道を一体的に整備し、また、6次産業化などの担い手支援を行ったことにより、農産物の輸送の効率化が図られ、農業の活性化に繋がった。	
	目標 4	観光交流の活性化	35,880千人	H27	41,250千人	R1	34,544千人	43,930千人	R6	34,136千人	×			コロナ禍等の影響により最終目標値を下回っているが、道路整備により、観光地へのアクセス向上が図られ、観光交流の活性化に繋がった。	
	目標 5	地域住民が安全・安心に暮らせる地域の増加（緊急輸送道路へのアクセス本数が増加する地区の増加）	0地区	H27	0地区	R1	0地区	7地区	R6	7地区	○			市道と広域農道を一体的に整備することにより、最終目標値を達成でき、地域住民が安全・安心に暮らせる地域の増加（緊急輸送道路へのアクセス本数が増加する地区の増加）に繋がった。	
②事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI）の実現状況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況				市道と広域農道を一体的に整備することにより、点在する観光地間のアクセス改善が図られたが、一部未開通区間が存在するため、引き続き事業実施を推進する。	
	指標 1	農産物の生産地から消費地等までのアクセス改善	-	-	-	-	-	-	-	-	-				-
		①南房総市下滝田～海ほたるPA	88 分	H28	88 分	R1	88 分	66 分	R6	85 分	-				
		②南房総市下滝田～木更津市公設地方卸売市場～江川海岸～大型商業施設～奈良輪地区（工業団地）～木更津市公設地方卸売市場	146 分	H28	142 分	R1	142 分	113 分	R6	132 分	-				
		③南房総市下滝田～木更津市公設地方卸売市場～かずさアカデミアパーク～民間直売所～民間レジャー施設～大型商業施設・富津工業団地～木更津市公設地方卸売市場	224 分	H28	224 分	R1	224 分	194 分	R6	213 分	-				
	指標 2	点在する観光地間のアクセス改善	-	-	-	-	-	-	-	-	-				-
		①道の駅「三芳村」鄙の里→道の駅「おおつの里」→道の駅富楽里とみやま→道の駅きよなん→道の駅保田小学校→東京湾観音→民間直売所→民間直売所→海ほたるPA	122 分	H28	122 分	R1	122 分	109 分	R6	118 分	-				
		②道の駅「三芳村」鄙の里→道の駅「おおつの里」→道の駅富楽里とみやま→道の駅きよなん→道の駅保田小学校→かずさアカデミアパーク→袖ヶ浦公園→袖ヶ浦海浜公園→大型商業施設→日帰り温泉施設→海ほたるPA	177 分	H28	171 分	R1	171 分	150 分	R6	159 分	-				
		③潮干狩場→大型商業施設→牧場体験→道の駅きよなん→道の駅「おおつの里」→「渚の駅」たてやま→道の駅「鴨川オーシャンパーク」→民間レジャー施設→濃溝の滝→民間直売所→君津IC	258 分	H28	255 分	R1	255 分	249 分	R6	249 分	-				
		④道の駅和田浦WA・0！→渚の駅たてやま→道の駅「三芳村」鄙の里→道の駅「おおつの里」→ばんや→牧場体験→民間直売所→中の島公園→日帰り温泉施設→民間レジャー施設→海ほたるPA	245 分	H28	242 分	R1	242 分	218 分	R6	229 分	-				
	指標 3	災害時のリダンダンシーの確保（千葉県指定緊急輸送道路1次路線、2次路線へのアクセス強化）	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
		①おおつの里（指定緊急避難場所）から	1路線	H28	1路線	R1	1路線	3路線	R6	2路線	-				
		②山高原地区から	1路線	H28	1路線	R1	1路線	2路線	R6	2路線	-				

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度 (R1)	最終実績	
その他の事業	市道整備事業（整備延長）	7,489 m	1,008 m	7,489 m	市道整備事業により、通勤地や観光地等への渋滞緩和及び、東京湾アクアラインや館山道のインターチェンジに近接する道路の整備による高速道路へのアクセス向上が図られた。 また、市道及び広域農道の開通により、災害時等における緊急車両の通行を円滑にするなど、地域住民の安全・安心の向上に向けた環境整備ができた。
	うち個別の路線	7,489 m	1,008 m	7,489 m	
	市道A 9052号線（館山市）	606 m	0 m	606 m	当該路線の整備により、通勤地や観光地等への渋滞緩和が図られた。
	市道B 101-2号線（木更津市）	125 m	125 m	125 m	当該路線の整備により、東京湾アクアラインへのアクセス向上が図られた。
	市道C 金田1号線（木更津市）	140 m	140 m	140 m	当該路線の整備により、通勤地や観光地等への渋滞緩和が図られた。
	市道D,E 2025号線・2469号線（木更津市）	450 m	275 m	450 m	当該路線の整備により、通勤地や観光地等への渋滞緩和が図られた。
	市道F 6431号線（木更津市）	700 m	0 m	700 m	当該路線の整備により、通勤地や観光地等への渋滞緩和が図られた。
	市道G 貝渚大里線（鴨川市）	1,928 m	468 m	1,928 m	当該路線の整備により、通勤地や観光地等への渋滞緩和が図られた。
	市道H 八重原線（君津市）	1,340 m	0 m	1,340 m	当該路線の整備により、東関東自動車道館山線へのアクセス向上が図られた。
	市道I 小山野・山高原線（君津市）	800 m	0 m	800 m	当該路線及び広域農道の開通により、災害時等における緊急車両の通行を円滑にするなど、地域住民の安全・安心の向上に向けた環境整備ができた。
	市道J 小久保岩瀬線（富津市）	900 m	0 m	900 m	当該路線の整備により、通勤地や観光地等への渋滞緩和が図られた。
	市道K 都市計画道路高須賀和田線（袖ヶ浦市）	500 m	0 m	500 m	当該路線の整備により、通勤地や観光地等への渋滞緩和が図られた。
	広域農道整備事業（整備延長）	3,200 m	1,374 m	1,779 m	広域農道安房2期の整備により、農産物の迅速な輸送や、点在する観光地間のアクセス向上、災害時におけるリダンダンシーの確保ができた。 また、市道及び広域農道の開通により、災害時等における緊急車両の通行を円滑にするなど、地域住民の安全・安心の向上に向けた環境整備ができた。
	（１）地方道路交付金事業の活用	地方道路の整備を進め、地域生活環境の向上と本地域へのアクセス改善を推進			地域生活環境の向上と本地域へのアクセス改善のため、国土交通省の社会資本整備事業を活用した地方道路の整備を進め、地域道路網の充実を図った。
	（２）6次産業化・農商工連携の促進	農水産物の高付加価値化と高収益化を推進し、農林漁業者の所得向上を図るため、食品加工業者など他業種との連携や6次産業化サポートセンター、千葉県産業振興センター等の支援により、地域ブランドとなる新商品の開発やマーケットの創造による需要の拡大を促進する。			・農林漁業者が自ら生産から加工・流通や販売まで携わり経営の多角化を目指す「6次産業化」を推進するため、農林漁業者からの相談にワンストップで対応する窓口として、千葉県6次産業化サポートセンターを設置し、県内事業者へ新商品企画や事業計画作成、販路開拓等に関する支援を実施した。なお、国の施策名の変更に伴い、令和4年度から「千葉県農山漁村発イノベーションサポートセンター（6次産業化サポートセンター）」に変更した。 ・行政、農林漁業、商工、金融等の関係機関で構成する「6次産業化・農商工連携協議会」を設置し、6次産業化等に関する戦略の策定・検討及び戦略に関する交流会を開催した。 ・経営感覚をもって6次産業化の事業に取り組める人材を育成するため、経営、マーケティング、資金調達等に必要な知見を得るための講義を行うとともに、加工・販売等の実践的な経験を得るため、6次産業化等に取り組んでいる事業者等へのインターンシップ研修を合わせて実施した。 ・中小企業者等と農林漁業事業者とが連携して行う新商品開発等の取組を促進し、地域経済の活性化を目指すため、ちば農商工連携事業支援基金による助成事業を行った。 ・南房総産ビジネス倶楽部の会員を対象に、市内農林水産物を原材料として使用し、農林漁業者と加工または販売を行う事業者が連携して商品開発を行う事業に対して補助を行った。
	（３）農山漁村等の活性化に向けた地域資源の活用事業	多様な農林水産物や美しい農村風景などの地域資源を活用した農林漁業体験施設、農林水産直売所等に観光客の受け入れを進める。また、地域資源を活用した新商品、新サービスの開発・事業化に取り組む中小企業者等を支援する。			・グリーン・ブルーツーリズム関連施設を紹介するガイドブックを作成しPRを行った。また、県内の農泊・体験コンテンツを紹介・発信するためのセールスツールを作成した。 ・農林水産物直売所の活性化を図るための研修会等を開催した。 ・農林漁家体験民宿について取組の活性化を図るため関係機関や民宿経営者等を対象に勉強会を開催した。 ・県内の直売所の支援として、スタンプラリーやイベントなどによる「ちばの直売所フェア」を行った。また、令和4年度からは、直売所に加えて農林漁業体験施設等を参加対象施設とした「ちばまるしえキャンペーン」を実施した。 ・県内の地域資源を活用した事業を行う中小企業等を対象に、新商品開発のためのマッチングイベントの開催や、専門人材による個別相談受付等を行ったことで、新商品開発が促進された。 ・「ちばの地域資源活用商品ロゴマーク」を作成し、県内中小企業の地域資源を活用した商品について、使用許諾を行った。令和3年度からは、名称を「ちばのキラリ ロゴマーク」に変更し、地域の特性を活用した商品についても活用できるように対象の範囲を拡大することで、県産土産品等の認知度向上に寄与した。
	（４）シティプロモーション事業	定住・交流人口の増加や、観光の振興等を図るため、ホームページ等による情報発信を強化するとともに、各種イベント等において地域の魅力をPRする。また、ちばアクアラインマラソンを始めとした当地域での大型イベントにおいては、引き続き連携してPR活動を実施する。			・三井アウトレットパーク木更津内「チーバくんプラザ」にて観光案内を行うとともに、県内の観光情報が一元的に把握できる千葉県公式観光サイト「ちば観光ナビ」やSNSで情報発信を行った。 ・「ちばアクアラインマラソン2024」では、県内市町村等が出展した観光物産展の開催や、マラソン終了後のランナーへ県を代表する土産品を配布するなど、観光や県産品のPRを実施した。 ・千葉県移住・二地域居住ポータルサイト「ちばらしい暮らし」において、県・市町村の移住関連情報の一元的な発信を行っている。
	（５）アクアラインを活用した企業誘致の推進	袖ヶ浦権の森工業団地2期地区について、平成29年度から分譲を開始するため、県と袖ヶ浦市で企業誘致を推進するとともにかずさアカデミアパークとの連携に向け（仮称）かずさインターチェンジの整備を促進する。			・袖ヶ浦権の森工業団地については、分譲が開始されすべて落札された。 ・圏央道の（仮称）かずさインターチェンジについて、早期整備を図るよう、国に要望した。
	（６）地域防災力の向上	災害から住民の生命・身体・財産を守るため、自主防災組織の育成強化や消防団員の確保、消防団の活性化、自助・共助の防災意識を高める防災教育等を推進し、自助・共助、公助が一体となった地域防災力の向上を図る。			・自主防災組織の結成や活動を促進するため、平成27年度から令和4年度まで「千葉県地域防災力向上総合支援補助金」、令和5年度は「千葉県地域防災力充実・強化補助金」により、市町村の事業に対し補助を行った。自主防災組織の優良団体の表彰を行い、その活動を広く周知した。また、令和元年度から防災研修センターにて、地域防災力の向上のため、県民や地域の自主防災組織、企業、市町村職員などを対象に研修を実施した。 ・消防団への加入・理解促進のため、活動紹介・救急救命体験を主な内容とした消防団活動PRイベントや、高校に出向いて消防団員による講話を行う出前講座、SNSを活用した広報などを実施したことで、若者や女性団員の増加が見られた。
	計画外で独自に実施した事業				

④評価方法	千葉県地方創生総合戦略推進会議（12月開催）にて、最終目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。
⑤事後評価の公表方法	千葉県、館山市、木更津市、鴨川市、君津市、富津市、袖ヶ浦市、南房総市のホームページに掲載
⑥計画全体の総合評価	市道と広域農道の整備により、農産物の生産地から消費地等までのアクセス時間を最大14分短縮、さらに点在する観光地間のアクセス時間を最大18分短縮し、アクセス改善することができた。また、災害時のリダンダンシーについても2路線を確保し、アクセス強化をすることができた。これらのことから、東京湾アクアライン・東関東自動車道館山線等のポテンシャルを向上させることができた。一方で、農家の高齢化に伴う離農等による生産者の減少、コロナ禍等の外的要因による影響を受けたことで達成できなかった数値目標も複数あり、地域活性化を目標通り進めるには至らなかった。
⑦今後の方針等	市道と広域農道の整備による、観光地間や農産物の生産地と消費地間のアクセス力強化や災害時のリダンダンシー確保により向上した東京湾アクアライン・東関東自動車道館山線等のポテンシャルを最大限発揮していくため、引き続き、6次産業化の促進やシティプロモーション事業などのソフト事業を実施し、地域活性化に向けた取組を進めて行く。 なお、本計画期間内で整備できなかった広域農道については、引き続き整備を進めていく。